

中学校社会科（歴史的分野）学習指導案

単元名 江戸幕府の成立	内容のまとめり B（3）近世の日本 （イ）江戸幕府の成立と対外関係
----------------	--------------------------------------

1 単元目標

- ・ 江戸幕府の成立と政権の安定、交通や産業の発展の様子にかんする資料を読み取ることで理解している。
- ・ 江戸幕府の政治のしくみの特色をとらえ、大名や庶民の生活、産業の発展について考えを深めている。
- ・ 近世の日本について、よりよい社会の実現を視野に、課題を主体的に追究しようとする態度を養う。

2 単元を通して身に付けたい資質・能力

江戸幕府の成立は長く続いた戦乱の時代からの回復と復興がはじまるきっかけでもあった。幕府成立にあたって、法や貿易の整備、産業の発展を進めていくことは、江戸時代初期の重要な課題だった。そこでこの単元では、参勤交代の制度の確立や鎖国、五街道の整備を通して、江戸幕府のしくみと支配体制を学習していく。その中で、本時では宿場町に注目し、その果たした役割を考えることで、当時の人々の生活や時代の様子を理解させたい。

3 実践計画の概要

（1）単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
江戸幕府の成立と大名統制、身分制と農村の様子、鎖国などの幕府の対外政策と対外関係などを基に、幕府と藩による支配が確立したことを理解している。	交易の広がりとその影響、統一政権の諸政策の目的、産業の発達と文化の担い手の変化、社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、アの(ア)から(エ)までについて近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	近世の日本について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
江戸幕府の成立と政権の安定、交通や産業の発展の様子にかんする資料を読み取ることで理解している。	江戸幕府の政治のしくみの特色をとらえ、大名や庶民の生活、産業の発展について考えを深めている。	近世の日本について、よりよい社会の実現を視野に、課題を主体的に追究しようとしている。

(2) 単元の指導計画と評価計画 [4時間扱い]

学習活動と内容 (時間数) 4時間	主な資料 (◆) と教師の支援 (◇) など
<p>1 江戸幕府の成立としくみ 関ヶ原の戦いの経過と結果や徳川家による幕藩体制のしくみについて理解する。</p> <p>2 江戸時代の交通 本時 江戸、大阪、京都の三都とそれらと関係の深い、五街道について資料を読み取ることを通して、宿場町の役割や幕府の交通政策のねらいについて考える。</p> <p>3 江戸時代の貿易 幕府が貿易相手や貿易場所を統制した理由についての年表や資料を読み取り、理解を深める。</p> <p>4 江戸時代の経済や商業の広がり 全国各地の特産物や農業の発達について理解し、商業が発展することで都市が形成されていく様子について考えを深める。</p>	<p>◆江戸幕府のしくみ、室町幕府のしくみ ◇江戸と室町を比較させ、江戸幕府の特徴について考えさせる。</p> <p>◆五街道、横浜市内の宿場町一覧 ◇宿場町の様子を資料から読み取らせる。 ◇宿場町の役割について考えさせ、幕府の交通政策のねらいについて深めていく。</p> <p>◆4つの窓口、貿易相手国と貿易品 ◇交通が発展することで世の中がどのように変化していくか考えさせる。</p>

4 本時目標

- ・ 五街道や三都に関する資料を読み取り、江戸時代における交通のしくみについて理解する。
- ・ 宿場町の様子を資料から読み取り、街道における人や物の往来に関わる宿場町の役割について考えを深める。

5 本時展開

主な学習活動と内容	主な資料 (◆) と教師の支援 (◇) など
<p>・ 五街道や三都に関する資料を読み取り、江戸時代の交通のしくみについて理解する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【予想される生徒の反応】 S：東海道や中山道によって、江戸と大阪が結ばれていた。 S：徳川にゆかりのある日光も江戸と結ばれていた。 S：横浜市には東海道が通っていた。 S：参勤交代の際の主要道路となっていた。</p> </div>	<p>◆五街道を表す図、横浜市内の東海道の図 (資料1)、参勤交代の様子が分かる絵図 ◇東海道によって江戸と大阪がつながっていたことについて読み取らせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【発問例】 T：五街道はどのように江戸と各地を結んでいたのでしょうか。</p> </div>
<p>・ 横浜市にあった宿場町の様子を資料から読み取り、宿場町の役割や現在とのつながりについて考えを深める。</p>	<p>◆横浜市内の宿場町の表 (資料2) ◇江戸から何番目の宿場であったか、ひとつ前の宿場から何kmのところ宿場が作られたか、宿場には何が置かれたかなど、表から読み取れ</p>

<p>【予想される生徒の反応】 S：休憩、情報の共有、物資の調達。</p>	<p>ることから、宿場町の役割について生徒たちに予想させていきたい。</p>
<p>【予想される生徒の反応】 S：「神奈川」、「保土ヶ谷」、「戸塚」など現在でもその地名や名残がある。</p>	<p>【発問例】 T：宿場町の役割にはどのようなものがあっただろうか。</p>
	<p>【発問例】 T：当時の宿場町の現在の様子はどうなっているだろうか。</p>
	<p>◇東海道とかかわりの深い地域にある市内の中学校は、周囲の環境について触れると良い。</p>

6 博物館との連携（参考文献など）

- ・東海道戸塚宿見付跡（資料1）
- ・3つの宿場比較（資料2）



神奈川宿	保土ヶ谷宿	戸塚宿
①江戸から3番目の宿場 川崎から約1.0km 「2里半」	①江戸から4番目の宿場 神奈川宿から約5km 「1里9町」	①江戸から5番目の宿場 保土ヶ谷宿から約9km 「2里9町」
②成立は慶長6年(1601)	②成立は慶長6年(1601)	②成立は慶長9年(1604)
③宿場の規模(1843年時点) 宿の長さは約3.5km 家の数は1,341軒 人口は5,723人	③宿場の規模(1843年時点) 宿の長さは約2.1km 家の数は5,528軒 人口は2,928人	③宿場の規模(1843年時点) 宿の長さは約2.2km 家の数は9,13軒 人口は2,906人
④旅館屋は58軒	④旅館屋は67軒	④旅館屋は75軒
⑤本陣は徳川将軍、大名、公卿 石井家と鈴木家で2軒 旗本陣は0軒	⑤本陣は 松原家のみで1軒 旗本陣は2軒	⑤本陣は 澤田家と内田家で2軒 旗本陣は3軒
⑥神奈川宿は上方・安房・江戸と繋がっていた 本陣の船、将軍専用の宿泊する地蔵川御殿があった	⑥戸塚との間の境木立場には 塩土地蔵、その先には品濃 一里塚がある	⑥江戸から4.2kmの戸塚宿は 早朝に江戸を出ると最初の 宿泊地(男性で一日約4 0kmあるいた)

その他、「東海道五十三次」の浮世絵や、当時の様子について詳しく知る資料が多く残っている。



横浜市域には、神奈川宿、保土ヶ谷宿、戸塚宿の3宿がおかれたが、図は「東海道五十三次」広重の浮世絵である。



神奈川宿の石井本陣前が描かれている。大名の荷物が届き、建物の中に入ろうとしているところである。「神奈川砂子」1824年
横浜市歴史博物館蔵